

本郷中央地区 社協だより 第 80 号



令和 8 年 6 月 29 日発行
本郷中央地区社会福祉協議会
発行責任者：会長 佐野 勝彦

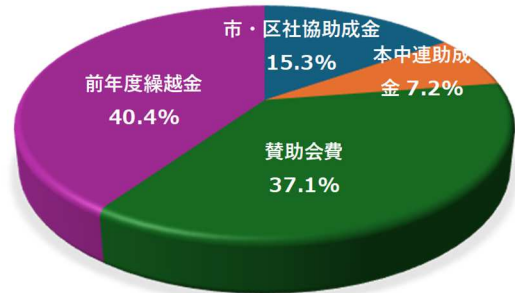
本郷中央地区社会福祉協議会 定期総会開催のご報告

5 月 30 日(土), SAKAESTA で定期総会を開催し, 令和 8 年度の事業計画および予算が提案どおり, 全会一致で承認されました。

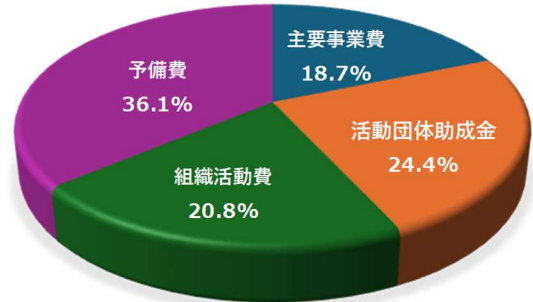
令和8年度 事業計画書
令和8年4月1日～令和9年3月31日

事業名	実施日・会場	対象・人員	実施内容等
主要事業	運営会議	年度内 随時 桂台地域ケアプラザ SAKAESTA	正会員・理事役員 総会・理事会・役員会などの開催
	企画部会	年度内 随時 栄区社協 SAKAESTA	部会員 新事業企画, 賛助会員募集など 地域連携対応
	事業部会	年度内 随時 桂台地域ケアプラザ	部会員 助成団体への支援・助成団体交流会実施, 賛助会員募集など
	広報部会	年度内 随時 栄区社協	部会員 地区社協だより年3回発行 地区社協パンフレット発行 全戸配布
	研修会	6月27日 SAKAESTA	正会員・理事役員 地区社協を理解していただくための研修会
	賛助会員募集	通年募集 地区全域	180件 地域福祉の発展と充実を図るために, 法人・個人の募集を行う
ミニニピック 協力	5月17日桂台中学校	13町内会・自治会訪問の家	地区社協賞として, 賞品を用意し, 積極的に協力する
本郷中央のつどい 協働	9月19日 栄公会堂	地域の方	地区内高齢者の交流のつどいを行う 90歳以上の方に花束贈呈予定
支え合い連絡会 協働	年度内 随時 桂台地域ケアプラザ SAKAESTA	正会員・理事役員	各種会議・福祉講座・協働福祉フォーラムなど 支えあい連絡会と話し合いのうえ実施
団体支援活動	三水会	毎月第3水曜日 SAKAESTA	高齢者 スタッフ9名 おひとり暮らしの高齢者のために毎月イベント を準備する「お楽しみ茶話会」
	子育て喫茶 「げんき」	毎月第2・4水曜日 SAKAESTA	未就園児親子 スタッフ19名 地域の子育て中の親子の支援, 相談見守り, 孤立化を防ぐ目的の会
	げんき広場	毎月第3金曜日 桂台自治会館	未就園児親子 スタッフ7名 親子でゆっくりと楽しく過ごせる居場所として 地域の親子に寄り添い見守る会
	桂台げんき食堂	毎週火曜日 桂台地域ケアプラザ	小中学生 スタッフ23名 今年の11月で活動10周年を迎えるのでイ ベントを計画している会
	桂台こどもの 居場所エトリーロ	毎月第1・3・4土曜日 花かご	小中学生 スタッフ7名 子どもたちがありのままの自分で多世代 交流のできる居場所
	配食サービス グループ「ゆう」	毎週木曜日 桂台地域ケアプラザ	食事作りが困難な高齢者 スタッフ82名 調理ボランティアが作ったお弁当を配達ボラン ティアが届けながらの見守り活動をする会
	サロン 「ぶらっとオアシス」	毎月第1木曜日 桂台地域ケアプラザ	地域の方々 スタッフ15名 地域の方々気軽に立ち寄り, 楽しいひと 時を共有し親睦を図り, さらに高齢者の見 守り 引きこもり防止を目的としている会
	関連組織連携	年度内随時参加	役員など

令和8年度収入内訳【1,108千円】



令和8年度支出内訳【1,108千円】



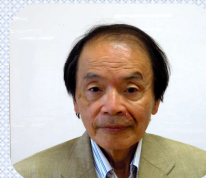
会長 佐野勝彦



副会長 大橋美根生



事務局長 折田藍子



会計 堯天俊介



監事 白水嘉子



監事 勝呂朋子

令和 8 年度は, 上記執行部メンバーで進めてまいります。どうぞよろしくお願ひします。

なお, 総会には栄区社会福祉協議会から, 山川英里事務局次長, 安田加奈主任主事にご臨席いただきました。この場を借りまして, 御礼申し上げます。

ご挨拶 本郷中央地区社会福祉協議会 会長 佐野 勝彦



このたび、5月の総会にて、竹谷前会長の後任として、就任しました佐野勝彦と申します。

本郷中央地区社協は、歴代の会長のもと、長年の役員の方々の努力により、町内会自治会、各種ボランティア活動の皆さんと、さまざまな取り組みの連携がされ、顔の見える関係作りができていと感じています。

とはいえ、社会福祉協議会の活動は、「なかなか見えてこない・・・」との声もあります。

本郷中央地区社協には、それぞれ地域活動をされている皆さんの50余名が会員として、社協の活動にも携わって頂いています。

それぞれの皆さんが、日頃から地域活動されていることが、すでに「顔の見えるつながり」であり、社協の活動ではないでしょうか。

第5期地域福祉保健計画(さかえ・つながるプラン)-地区別計画「令和8年～12年」も、4月から始まりました。本郷中央地区の取り組みは、テーマ1(高齢社会を支えあうつながり)、テーマ2(子育てを通じた地域のつながり)、テーマ3(災害時にも助けあえる日常的なつながり)、テーマ4(障害のある方も安心安全に暮らせるつながり)です。

今後とも、本郷中央地区のモットー「ちょっと気づかい そっと見守り」の精神で、ご協力をよろしくお願いしたいと思います。

退任のご挨拶 前会長 竹谷 康生



80歳余で「シニアクラブ」の役割を終え、のんびりしていた折にお声をかけていただき、本郷中央地区「社協」の席を頂いてから8年目、奇しくも卒寿に退任させていただきました。この間、お世話になった多くの方に感謝申し上げます。

当地区の福祉活動は、連合町内会・自治会と各福祉活動団体との連携が模範的という幸運に恵まれ、微力ながら順調に進めることができ、4年目に制度化された「支えあい活動」で盤石となり、加えて、当地区独自の賛助会員制度による資金で、福祉活動団体に支援する制度を誇りに思っています。

社協の益々のご活躍を祈念し、お礼とさせていただきます。

地区社会福祉協議会の活動

地区社協(地区社会福祉協議会)とは、「自分たちの地域は自分たちで良くしていこう」という理念のもと、町内会や自治会などより大きな地域(連合町内会単位)をベースに組織された住民同士の助け合い組織・任意の団体です。

●地区社協の主な活動見守り

- ・声かけ:高齢者や障害のある方の孤立を防ぐための定期的な安否確認。
- ・居場所づくり:子育てサロン、高齢者のふれあい会食会、多世代交流イベントの開催。
- ・生活支援:ちょっとした日常の困りごとの相談など、地域のボランティアによる小規模な助け合い。

●構成メンバー

地区の住民だけでなく、町会・自治会役員、民生委員・児童委員、ボランティア団体、地域の学校や福祉施設の代表など、幅広いメンバーで構成されています。

笑顔と歓声が地域をつなぐ！
第 43 回ミニリンピック(栄区制 40 周年記念大運動会)を開催しました



大きな事故や怪我もなく、無事に全日程を終えることができました。

■ 白熱の対抗競技と、心をひとつにする応援

会場は本郷中学校(校舎建て替え中は本郷小学校)と桂台中学校を交互に借用しており、今年は桂台中学校での開催となりました。昼休みには同校の吹奏楽部による素晴らしい演奏が披露され、会場全体が心地よい音色と拍手に包まれました。

競技は、子どもからお年寄りまで誰もが気軽に参加できる 16 種目のほか、意地とプライドがぶつかり合う町内会・自治会対抗の 3 種目が行われました。



■ 来年また、グラウンドで会いましょう！

参加者には 1 位から 3 位賞のほか、嬉しい参加賞も用意され、誰もが笑顔で 1 日を楽しみました。「見るだけでも楽しい、居るだけで元気になれる」工夫が詰まったミニリンピック。地域のつながりの深さを改めて実感できた素晴らしい 1 日となりました。爽やかな風と、地域の温かい笑顔があなたを待っています。

5 月 17 日(日)、本郷中央地区の町内会自治会をはじめ、訪問の家「朋」「径」などから多くの皆さんが参加し、「第 43 回ミニリンピック」が桂台中学校を舞台に盛大に繰り広げられました。

■ 区制 40 周年を祝う特別な大運動会

今年は栄区制 40 周年という記念すべき節目、今回は「栄区制 40 周年記念本郷中央地区大運動会」と銘打ち、競技の内容にもさまざまな趣向を凝らした特別な大会となりました。

当日は真夏を思わせるほどの強い日差しが照りつける炎天下となりましたが、参加者は暑さに負けず力いっぱいのプレーを披露。爽やかな汗を流し、



特に熱を帯びたのは、メディンボール、綱引き、対抗リレーの 3 種目です。周囲からの割れんばかりの声援と熱気あふれる応援を背に受け、選手たちは大奮闘。結果、今年のメディンボールは「フローラ桂台」が、綱引きと対抗リレーは「湘南桂台」が見事に 1 位を獲得しました。

さらに、ミニリンピックのもうひとつのお楽しみである「ウルトラクイズ」と「大抽選会」では、豪華賞品を賭けて参加者全員が大熱狂。会場のボルテージは最高潮に達しました。

助成対象活動団体の紹介 手作り弁当の温もり 配食ボランティア「グループ ゆう」

木曜日の午前中、桂台地域ケアプラザの調理室から、食欲をそそる良い香りが漂ってきます。今回は、地域の食事作りが難しい方々へ手作り弁当を届け、温かく見守り続けている「グループ ゆう」をご紹介します。



■ 始まりは 32 年前の「有志の想い」

「グループ ゆう」が発足したのは、今から 32 年前の 1994 年。地域の有志が集まってスタートしました。「ゆう」という優しい響きの名前ですが、実はどのようにして生まれたのか、今では誰もよく分からないというのも、歴史を感じる微笑ましいエピソードです。現在は、調理ボランティアが 5 班(各 10~13 名)に分かれて交代で調理を担当。配達ボランティアには 23 名が登録し、約 40 名の利用者の方々へお弁当を届けています。

■ 息ぴったりの調理と、徹底したこだわり

朝 9 時、調理室にメンバーが集まると、あうんの呼吸で作業が始まります。無駄のないキビキビとした動きは、まさに職人技。「グループ ゆう」が特に大切にしているのは、次の 3 点です。

- ・栄養と家庭の味：毎月の献立会議で案を出し合い、栄養やメニューが偏らないよう調整。「栄養バランスに配慮した家庭的な味」を心がけています。
- ・安心・安全(衛生管理)：衛生面には特に気を配り、おかずは全て火を通したもの。さらに、5 月~10 月の暑い時期は「置き配」を一切しない徹底ぶりです。
- ・地元とのつながり：地元企業「キオクシア」が社内で栽培している野菜の提供を受けており、お弁当作りの大きな支えになっています。

【本日のメニュー】これで 500 円！？ 驚きの豪華さ

取材に伺った日のメニューは、目にも鮮やかでボリューム満点。とても 1 食 500 円とは思えない豪華な内容でした！メニュー内容は、ゆかりごはん、豚肉と切り干し大根の煮物、魚の野菜あんかけ、青菜のサラダ、じゃがいものソテー、抹茶ゼリー(デザートまで！)

■ お弁当と一緒に届ける「安心」と「笑顔」

11 時過ぎにお弁当が完成すると、11 時 30 分からは配達ボランティアにバトンタッチされ、利用者のもとへ出発します。配達時、お誕生日を迎える利用者の方には「誕生日カード」を添える細やかな心遣いも。過去には、配達時に自宅で転んで動けなくなっていた方を発見し、救助につながったこともあったそうです。メンバーの励みは、利用者からの「おいしい」という声や感謝の言葉。利用者からは「もっと回数を増やしてほしい」という嬉しい要望も上がっていますが、現在の体制では維持するのが精一杯なのが現状です。

■ これからの課題と、メンバー募集のお願い

1 食 500 円という価格を維持していますが、昨今の材料費高騰で、運営はかなり厳しい状況です。また、ボランティアの高齢化も今後の大きな課題です。調理や配達など、少しでもボランティア活動に関心のある方は、ぜひ一歩を踏み出してみてください。あなたの力が、地域の誰かの「笑顔」と「安心」につながります。

【お問い合わせ】活動への参加希望や詳細については、グループゆう ☎080-9056-5188 までお気軽に！



【編集後記】雨の日が多い時期です。鬱陶しい気分になりますが、雨に濡れて鮮やかに咲くアジサイを見ると心が洗われます。同じ事でも見方ひとつで変わるものとあらためて思いました。

編集委員：森木澄夫、佐野勝彦、長沼勲、山井俊昭、山田守、岩見忠弘、八ッ橋恒男、菊池康夫